

令和5年度

岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

令和6年3月

岐阜女子大学・大学院

# 目 次

1. 外部評価委員名簿 .....	1
2. 外部評価委員会次第 .....	2
3. 外部評価委員会報告内容	
(1) 本学の教育課程について .....	5
(2) 本学の今後の方向性 .....	11
次期中期計画・中期目標について	
大学・高専機能強化支援事業への応募と改組について	
4. 外部評価委員会議事要録 .....	21
5. 3 ポリシー（令和 5 年度） .....	31

# 1. 外部評価委員名簿

岐阜女子大学・大学院 外部評価委員会

委員所属・職名	委員氏名 (50音順・敬称略)
清水建設株式会社名古屋支店 副支店長	小川 哲也
常葉大学 浜松キャンパス 浜松基礎教育センター 主幹	小関 雅司
国立大学法人 信州大学 理事	高口 努
岐阜市教育委員会 教育長	水川 和彦

## 2. 外部評価委員会次第

日 時：令和6年2月10日（土）

13：30～15：00

場 所：岐阜グランドホテル

岐阜県岐阜市長良 648 番地

Tel：058-233-1111(代表)

[次第1] あいさつ 13：30～13：40

(松川禮子 学長・杉山博文 理事長)

[次第2] 本学の教育課程について 13：40～13：55

(富士霸王 学生部長)

[次第3] 本学の今後の方向性 13：55～14：10

次期中期計画・中期目標について

大学・高専機能強化支援事業への応募と改組について

(松川禮子 学長)

評価委員講評 14：10～15：00

司会：学長補佐（谷里佐・笠井恵里）

### 3. 外部評価委員会報告内容

本学の教育課程・学修に関する諸活動は、2009年度に採択された文部科学省「大学教育・学生支援事業」「学生支援プログラム」『社会ニーズに対応した学士力と高い就職率・定着率を目指す教育』の3年間の活動をベースにして、以後毎年見直しと改善を加えながら、活動を継続してきました。

大きな構成としては、本学での4年間の学びを中心に置き、入口である高校と出口である社会をしっかりと結びつける体制です。入口部分に於いては新入生が安心して大学の授業に参加できるように、「入学前課題」等による「入学前支援」を行います。入学後は学科・専攻のコア・カリキュラムを念頭に初年次教育に力を入れ、2年生、3年生と進級していくに従い専門教育科目を学びます。社会との結びつきについては、1年生からキャリア教育に取り組み、内容を濃くしながら3年生にそのピークを持ってくる体制を作っています。

大学認証評価でも高い評価を得た「各種テキスト」は、本学の教育課程を特徴付けるもので本学教員が本学学生を念頭に作成したもので、「入学前学習課題テキスト」「初年次教育テキスト」「専門基礎テキスト」「資格取得ガイドブック」「資格取得のための手引書」を用意して節目、節目で活用しています。

近年は、近隣市町村からの要望も多いため、本学の特色を活かした「地域連携・地域貢献」にも積極的に取り組んでいます。

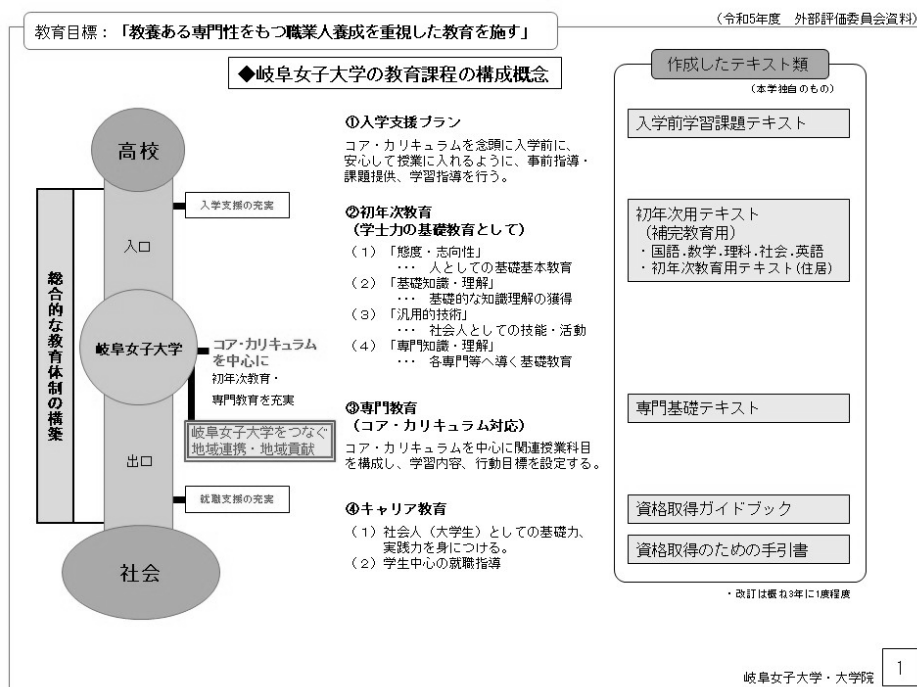


図 教育課程の構成概念図

## 1. 令和5年度の主な活動

### ○ 大学機関別認証評価・改善報告書作成の準備について

令和3年度（2021年度）に受審した「大学機関別認証評価」に於いて、本学は、2022年3月16日付けの『評価報告書』で『適合判定』を受けています。只「改善を要する点」として3点の指摘を受けています。内2点については即時対応を済ませていますが、「定員確保に向けた改善が必要」との指摘への対応が残っていました。定員の確保・定員充足率等への対応策は、本学の将来像にも大きく影響を及ぼす事項であり、昨年来、種々検討をしてきました。『改善報告書』の提出期限は本年6月であり、検討結果を本年度中に纏め、学内手続を終え、新年度に提出の予定を組んでいます。

### ○ 新しい中長期経営計画の作成について

中期経営計画は、本年が最終年度であり、4月からは、「第3期中期経営計画」がスタートします。6月に「中期経営計画委員会」を立ち上げ検討をしてきた結果がほぼ纏まり、本年度中に、必要な手続を終え、新年度スタートを予定しています。

### ○ 大学・高専機能強化支援事業について

この事業は、国の政策であり「学部再編などによる特定成長分野（理学・工学・農学分野）への転換などに係る支援」への応募に向けての取り組みです。この支援事業に採択されることは、今後の本学の将来像・学部改組等にも大きく影響を与える重要な取り組みです。審査は3月から5月中に行われる予定です。

### ○ テキスト類の改定について

本年度は、健康栄養学科で3テキスト、観光専修、デジタルアーカイブ専攻で各1テキストの改定を行い、活用を始めました。

### ○ 授業改善に関わる学生アンケートについて

例年通り、後学期第1週「12月4日（月）～9日（土）」を中心に、アンケートを実施しました。アンケート回収後は、担当教員が結果を分析・報告書に纏め、本学のグループウェア（サイボウズ）上で公開しています。今年度は特に「自由記述欄」への対応が徹底されるよう例を示し、注意喚起しました。

### ○ 就職関連支援

例年通り、学科・専攻では資格取得のための支援講座を実施し、キャリア支援センター、教育支援センターを中心に、全学的な支援講座を多数用意して、就職支援を積極的に行っています。就職内定率は2024年2月現在91%になっています。

## 2. 岐阜女子大学・沖縄女子短期大学姉妹校協定締結 15 周年記念事業について

岐阜女子大学・沖縄女子短期大学姉妹校協定締結 15 周年記念事業として、10 月 8 日(日) 14:00～16:00 に、沖縄女子短期大学・大教室(1階)を会場に講演会を開催しました。

記念講演は、信州大学理事(元文部科学省大臣官房審議官)の高口努先生に「教育政策の動向と新たな教師の学びの姿」というテーマでご講演頂きました。

その後、本学の横山隆光文化創造学部長とメタバースクラブの学生が、「DX(デジタルトランスフォーメーション)による新たな大学の学びの姿」というテーマで、実践紹介を行いました。参加者数はオンラインも含め 165 名でした。

また、当日の午前中には、「未来の幼児教育講演会(幼児教育を再生する)」を開催しました。会場は沖縄女子短期大学・大教室で、開催時間は、10:00～12:00 でした。

基調講演は、文部科学省初等中等教育局幼児教育課長の藤岡謙一先生に「幼保こ小連携と幼児教育コーディネータ」というテーマでご講演頂きました。

その後、本学の久世均教授が、「これからの幼児教育を創造する幼児教育コーディネータ」というテーマで、また、沖縄女子短期大学専任講師の名渡山よし乃先生に「これからの沖縄の幼児教育に向けて」というテーマでご講演頂きました。

こちらの参加者は、オンラインも含めて 367 名でした。

(令和5年度 外部評価委員会資料)

教育目標：「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」

### 岐阜女子大学・沖縄女子短期大学 姉妹校協定締結15周年記念事業

- 日付 2023年10月8日(日) 14:00～16:00
- 場所 沖縄女子短期大学・1階 大教室

内容

(1) 記念講演  
教育政策の動向と新たな教師の学びの姿  
高口 努 氏(信州大学理事(元文部科学省大臣官房審議官))

(2) 実践紹介  
DX(デジタルトランスフォーメーション)による  
新たな大学の学びの姿  
横山 隆光 氏(岐阜女子大学教授)・  
メタバースクラブ(岐阜女子大学)





参加人員

会場参加	オンライン参加	計
100	65	165

岐阜女子大学・大学院 3

図 岐阜女子大学・沖縄女子短期大学姉妹校協定締結 15 周年記念事業



### 3. 地域連携活動などについて

今年度も昨年同様、地域に存在する大学としての使命・責任を果たすべく各種の連携活動に取り組んでまいりました。下図は、本学HPに掲載の今年度を中心に取り組んだ地域連携活動・包括協定・企業との連携・高大連携の一覧表です。長年継続しての活動も多くありますので、詳細は本学HPを是非ご覧ください。

教育目標：「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」

(令和5年度 外部評価委員会資料)

#### □地域連携活動

連携先	事業名 (課題名)	実施年度	関係する 学科・専攻・専修
山県市 健康介護課	岐阜女子大学・山県市コラボ事業「視康寿師を延ばす養老院～今から始める遠隔教室～」	令和5年度 (再続)	健康栄養学科
株式会社美濃にわか栄屋(美濃市選の蔵)	地域食材を活かした創作コラボレーション事業	令和5年度	健康栄養学科
各務原市	・地方創生「空を繋リノベーション事業」 ・各務原市善見飛ヶ丘住宅リノベーション事業	令和5年度	住居学専攻
岐阜県	岐阜県善住宅空き部屋リノベーション事業	令和5年度	住居学専攻
山県市	山県市高富商店街活性化プロジェクト	令和5年度	住居学専攻
各務原市西 ライフデザインセンター	服飾と文化・ミニファッションショー	令和5年度	生活科学専攻
岐阜市 教育委員会	新1年生へのタブレット端末貸与式「GIGAひろぎ」	令和5年度	初等教育学専攻
山県市	E66プラン	毎年度実施	初等教育学専攻
高富保育園	書き指導ボランティア	令和5年度	文化創造学専攻 書道専修
岐阜市	蔵とまちを先でつなぐ花のイルミネーション	令和5年度	文化創造学専攻 書道専修
岐阜県放越 ホテル生活 宿生同業組合 他	安心・安全・おもてなしの地域活性化システム構築のための連携事業	令和3年度～継続	文化創造学専攻 観光専修

本学HPから抜粋

#### □包括協定

連携先	事業名 (課題名)	実施年度	関係する 学科・専攻・専修
下呂市役所	地域資料教育利用DX推進事業	令和4年度～ 現在	文化創造学専攻 メタバースクラブ

#### □企業との連携

連携先	事業名 (課題名)	実施年度	関係する 学科・専攻・専修
アトレ ファーム ジャパン 株式会社	体教連携 みとか・岐阜女子大学 コラボ事業	令和4年度～	健康栄養学科
岐阜北 警察署	岐阜北警察署大学生ボランティア活動に関する覚書	令和5年度～	初等教育学専攻
有限会社 笠房商事	LPガス容器管理のDX化を推進するM6	令和5年度	デジタルアーカイブ専攻
岐阜至休 工業	メタバースを活用した地域貢献	令和5年度	デジタルアーカイブ専攻

#### □高大連携

連携先	事業名 (課題名)	実施年度	関係する 学科・専攻・専修
飛騨高山大 学運動セン ター	書道創夏期練習会	令和5年度	文化創造学専攻 書道専修
伊南西 高等学校	デジタルアーカイブに関する教育プログラムの開発。並びに教材開発等実施等における伊南市文化遺産デジタルアーカイブの相互活用その他連携を推進	令和5年度	デジタルアーカイブ専攻
岐阜県立岐 阜南高等学校	メタバースの教育利用	令和5年度	デジタルアーカイブ専攻
岐阜県立岐 北高等学校	メタバースの教育利用	令和5年度	デジタルアーカイブ専攻

岐阜女子大学・大学院

5

図 地域連携活動・包括協定・企業との連携・高大連携の一覧表



## 5. 岐阜女子大学ドローンカレッジについて

ドローンは、近年ますます利活用範囲が広がり注目を集めています。本学でも早くからドローンについての情報収集・検討をし、2020年の3月に「岐阜女子大学ドローンカレッジ」(JUIDA認定校)を開校しました。2022年12月には、国土交通省が、所謂「ドローンの操縦ライセンス」等のあり方検討の結果、国家資格としての運用を決定し、本学もそれに対応し、今後の社会的活用の拡大を見込み、国家資格取得の体制整備として、運営を開校時の「NPO法人日本アーカイブ協会」から「学校法人華陽学園」に変更し、国土交通省に「登録講習機関」として登録(2023年4月)しました。

2024年2月現在、カレッジ修了者は85名、修了者の内、本学学生は42名です。

(令和5年度 外部評価委員会資料)

教育目標：「教養ある専門性をもつ職業人養成を重視した教育を施す」

**岐阜女子大学ドローンカレッジ (JUIDA認定校)**

<p>受講対象者 (想定)</p> <p>①大学生・大学院生 (他大学含)</p> <p>②一般社会人</p> <p>・ 仕事上必要とされる方</p> <p>・ 教養の一つとして身に付けたいとされる方</p>	<p>現在までの修了者 : 85名</p> <p>内岐阜女子大学学生 : 42名</p>
--	--



令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)
<p>・ 2020-3月</p> <p>岐阜女子大学ドローンカレッジ開校</p> <p>・ 運営会社 NPO法人日本アーカイブ協会</p> <p>・ 取得免許の種類・JUIDA無人航空機操縦技能</p> <p>・ JUIDA安全制度管理者</p>		<p>・ 2022年12月</p> <p>ドローンの操縦ライセンス等</p> <p>国家資格としての運用決定</p>	<p>・ 2023年4月</p> <p>登録講習機関として登録</p> <p>(国土交通省)</p> <p>運営会社</p> <p>学校法人華陽学園に変更</p>

住居(建築)分野でのドローンの活用例



岐阜女子大学全景



災害検査高棟(橋)



京杯観カメラ

測量 3次元測量(ドローン等を用いた測量マニュアルの導入)



従来の測量

ドローン等による3次元測量


出典：国土交通省ウェブサイト  
(<https://www.mlit.go.jp/comono/001137123.pdf>)

岐阜女子大学・大学院

7

図 岐阜女子大学ドローンカレッジと住居(建築)分野でのドローン活用例

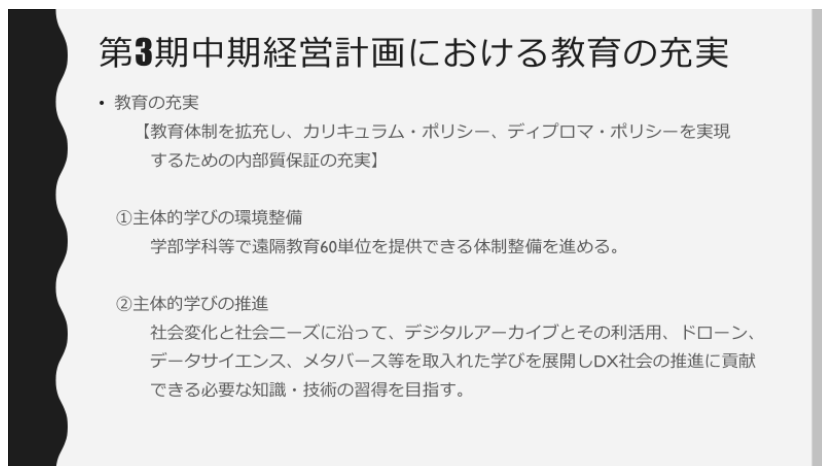
岐阜女子大学の今後の方向性に関して、第一に第3期中期経営計画（2024年から2028年までの5年間）における教育の充実、第二に改組計画、と大きく2点についてご説明申し上げます。



## 概要

- ・ **中期目標・中期計画（第3期：2024－2028）における教育の充実**  
大学教育推進会議で  
「DXによる効果的で質の高い学修の実現を目指す」  
企画・検討部会  
e-Learning推進部会  
DX推進部会
- ・ **改組計画**  
基金活用による学部・学科改組

### 1. 第3期中期経営計画における教育の充実



## 第3期中期経営計画における教育の充実

- ・ **教育の充実**  
【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】
  - ①主体的学びの環境整備  
学部学科等で遠隔教育60単位を提供できる体制整備を進める。
  - ②主体的学びの推進  
社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取入れた学びを展開しDX社会の推進に貢献できる必要な知識・技術の習得を目指す。

本学にとりましては、第3期中期経営計画期間にあたるこれからの5年間は、社会の急激な変化、少子化の進行も相まって、非常に厳しいものになることが予想されます。中期計画そのものには、教育のほか、研究、社会貢献などのビジョンも含まれておりますが、本学は常に学生を中心とした教育理念を堅持してきておりますので、教育ビジョンに限定してご説明申し上げます。

まず、教育の充実とは、教育体制を拡充してカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実ということにも言い換えられ、以下の2点を考えております。

1点目は、主体的学びの環境整備です。現在、学部学科・専攻等で、大学設置基準によると、全体の修得単位のうち60単位をオンラインなどの遠隔授業で取得できるようになっております。これについては今後、緩和されることも予想されますが、現在のところは特別の理由がない限りは上限がございますので、まずは遠隔教育で60単位を提供できる体制整備を進めていきます。

2点目は、主体的学びの推進です。社会が大きく変化しておりまして、その変化とニーズに沿って、本学がこれまで20年以上蓄積してまいりましたデジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開し、DX社会の推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指します。

## 大学教育推進会の最終目標

### ・DXによる効果的で質の高い学修の実現

- 対面授業とオンライン授業の併用 もしくはメタバース等の最先端技術の活用
- 学びの環境整備（ネットワーク、パソコン、コンピュータ室）
- 授業外学修時間の増加やアクティブラーニングの推進
- 学生の習熟度等のデータ把握と、それに基づく評価・検証

教育の充実を進める体制といたしましては、「大学教育推進会議」を組織し、その中に、「企画・検証部会」「e-Learning 推進部会」「DX 推進部会」という 3 つの作業部会を設けております。新たな学修環境の実装、それから、質の高い学修の具現化を図ろうとしているところでございます。

最終的な目標は、全ての授業をオンラインということではなく、実習・実技等々、オンラインではできないものも多々ございますので、対面授業とオンライン授業の併用、もしくは、メタバース等のこれからも次々と出てまいります最先端技術の活用を行うことが基本であります。そのための学びの環境整備として、ネットワーク、パソコン、コンピュータ教室の再整備が必要となります。

それから、授業外学修時間を増加させ、アクティブラーニングを推進するための仕掛けをどのように作っていくかも重要であります。学生の習熟度等のデータ把握と、それに基づく評価・検証を併せて行いつつ、質の高い学修が本当に実現しているのかどうかということ、そのためにどうしたらよいかということを考えてまいりたいと思っております。

## e-Learning推進部会

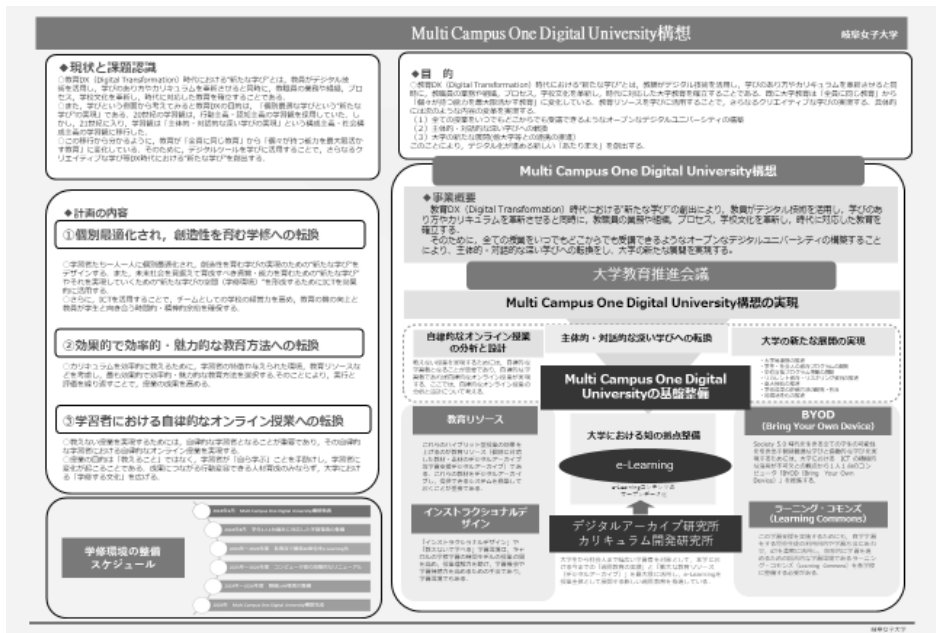
### e-Learning 推進に関する中期計画について

- Multi Campus One Digital University 構想  
全ての授業をいつでもどこからでも受講できるオープンなデジタルユニバーシティを実現
- 主体的・対話的な深い学びへの転換
- 大学の新たな展開

まず、「e-Learning 推進部会」で、この 1 年間、具体的に進めてきておりますことをご紹介します。この部会では、e-Learning コンテンツを、実際に各学科専攻（専修）ごとに作成する作業を進めております。随時、本学のホームページから公開されることになると

思います。現在、この部会の委員の先生方に、率先して作っていただいているところがございます。

前述のように、大学設置基準では、オンラインなどの遠隔授業による修得単位の上限は60単位になっておりますが、一気に60単位分を作成できませんので、4年計画で作ろうと計画しているところがございます。



上図に示す「Multi Campus One Digital University 構想」により、全ての授業を、いつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの実現を目指すものがございます。コロナ禍で、2 か月ほど学校を閉じたという期間がございました。その時に培ったノウハウがございます。それから、近年、教室でほかの方と一緒に対面授業を受けにくい学生さんもいるのが現実でして、「いつでも、どこからでも」ということが可能な環境整備を追求していくということがございます。

しかしながら、e-Learning を整備すること自体が目的ではなく、それを通して、学生個人が主体的に対話的な深い学びを行っていくように、学びのシステムを転換することがあくまで主眼でございます。

さらに、大学の新たな展開として、作成した e-Learning のコンテンツは、通常の授業に利用するだけでなく、今後、大学は、生涯学習、社会人のリスクリング等々の機関としても、積極的に役割を果たしていくことが必要ですので、先ほどの富士先生の報告にもありましたが、すでに本学では幼児教育関係の履修証明プログラムの提供など、さまざまな一般の方向けの公開講座を行っております。これらの公開講座や履修証明プログラムでの利用も想定し、e-Learning のコンテンツ作成を進めているところでございます。

コンテンツ作成にあたっては、「インストラクショナルデザイン (Instructional Design)」という手法を使いまして、ある意味では、大学・高等教育の指導方法の改革になりますが、これを e-Learning コンテンツ作成の中で進めていきたいと思っております。

e-Learning というのは、単にそれぞれのデバイスで、パワーポイントのスライド状のテキスト教材を次から次に読んだり、動画教材を視聴して学ぶということではありません。スライドや動画による解説以外に、教科書やガイドブックなどをセットで用意していきます。そのような新しい学修システムを、e-Learning のコンテンツを作る中で開発していくという、一種の大学の FD にもなっているところです。

## DX推進部会

**DXによる教育の質的転換のためにICTを活用した質の高い教育を実現するための全体計画を策定する**

- メタバースを活用した学修
  - ・各専攻のメタバース教室の制作・改修
  - ・各科目のメタバース教室の制作
  - シラバス・教材との連携

次に、「DX推進部会」ですけれども、この部会の目標は「DXによる教育の質的転換のためにICTを活用した質の高い教育を実現するための全体計画を策定する」ということで



ございます。

昨年度から本学は、先進的にメタバースの開発を進めております。本年度は、生成 AI なども活用して、さらに進展しております。このメタバースの学修環境の整備が、現在のところ中心になっております。自宅から簡単に接続できて、さまざまな学修環境が構築できて、臨場感が得られて、さまざまな学習者間のコミュニケーションが可能であるメタバースの学修環境の構築を行っております。

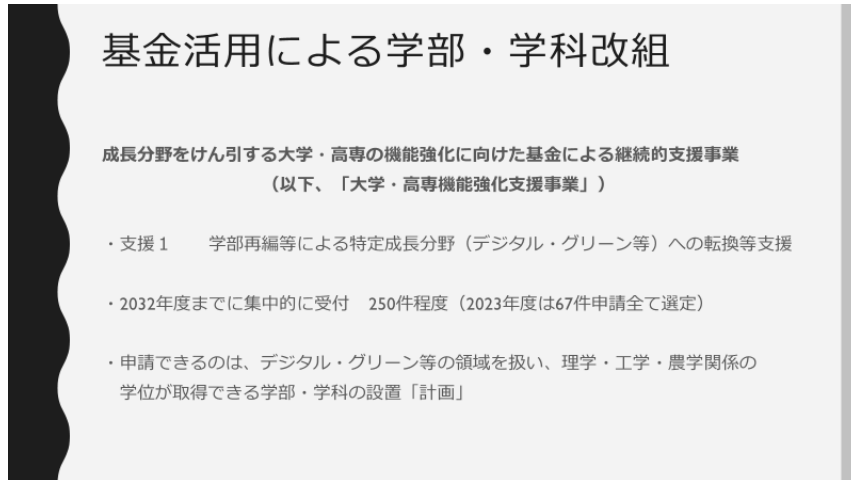
各専攻のメタバース教室の制作・改修や各科目のメタバース教室の制作も進んでおります。シラバス・教材と連携して、メタバースの中で全て授業が完結するわけではないですが、カリキュラムの中の一部でも、メタバースを使ってどういうことができるのかという試行を、現在、進めているところでございます。



上図に示すように、日本語教育の部屋とか、メタバース・データサイエンス教室だとか、書写の部屋をメタバースで作り、その中で、どういうものを提示して、そこで学生同士が何をするのかという設計を行っています。

さらに本学の学生だけではなく、例えば、地理的に離れた学校の小学生同士とか、沖縄と岐阜をつないで双方の学生がメタバースに入って交流するということを試みております。この仮想空間上の教室において、本学の学生だけではなく、さまざまな方に参加していただいて、いろいろな学習経験ができるということを実験的に行っております。

## 2. 基金活用による学部・学科改組



### 基金活用による学部・学科改組

成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援事業  
(以下、「大学・高専機能強化支援事業」)

- ・支援1 学部再編等による特定成長分野（デジタル・グリーン等）への転換等支援
- ・2032年度までに集中的に受付 250件程度（2023年度は67件申請全て選定）
- ・申請できるのは、デジタル・グリーン等の領域を扱い、理学・工学・農学関係の学位が取得できる学部・学科の設置「計画」

次に基金活用による学部・学科改組計画についてご説明申し上げます。これまでも、本学におきましては、特に文化創造学部を中心にして、文学部から現在の文化創造学部へと、改組・変遷を重ねてきております。今回の改組計画については、一つのきっかけが、この度文部科学省が用意した 3000 億円の「成長分野を牽引する大学・高専の機能強化に向けた基金」の活用であり、この基金による支援を受けて改組を進めていくことができる事業への申請であります。

この基金の背景は、一方でデジタル化の加速度的な進展、また、グリーントランスフォーメーション（Green Transformation）といわれておりますけれども、脱炭素化の世界的な潮流があります。これは産業構造を単に改革するというだけではなく、労働需要のあり方についても、かなり根源的な変化をもたらすと予想されています。しかし、日本では、大学で理工系を専攻する学生が少なく、少なくとも大学の学部段階で、理工系への入学者の割合は 17%しかありません。私立大学では、特に文系が多いということもございます。そのトレンドを変えるために、基金を用意して、成長分野で働けるような人材を育成するというところでございます。この事業は、令和 14 年度までとなっており、穿った見方をすると、そこまで期間を区切って申請を集中的に受け付けて、大学や高専の迅速な学部再編等を促進するという目的とも考えられます。

少子化が極まる状況で、私立大学の半数では定員割れが起こっております。現状のまま

では、なかなか立ち行かないわけで、今後、いろいろな動きがあると思うのですけれども、一つは、今までの学部・学科を成長分野に改組して新たな挑戦をしていくことが考えられます。しかし、ある程度の支援がないと、思い切った転換はできないわけです。特に文系から理系へ転換しようと思うと、それなりの人的な資源も施設設備等々も必要になってきますので、資金がないとできません。そこをある程度、支援してくれるというのが、この基金による支援事業の魅力的な点でございます。

特に、「支援1」と「支援2」があって、「支援1」のほうを、私どもは狙っていきたいと考えております。初年度の2023年度は67件申請がありまして、67件の申請が全て選定されております。私どもは、次の2024年度、2024年2月末が締め切りですけれども、それに向けて申請していこうということです。

申請できるのはどういう分野かという、デジタル・グリーン等の領域を扱い、理学・工学・農学関係の学位が取得できる学部・学科の設置計画ということになっております。本学では、従来、そういう学位は取得できるようになっておりませんので、これは一大転換になるわけです。そう簡単なことではないと思っておりますが、やはり、これは挑戦するべきだと考えて、今、鋭意努力しているところでございます。

## 改組計画（特定成長分野（DX/GX）への転換）

### ・家政学部 → グリーンライフ創造学部（仮称）

生活を支える社会のニーズと課題に応えるため、GXとDXで新たな人間生活を創造する人材の育成

生活創造科学科（仮称）

建築デザイン創造学科（仮称）

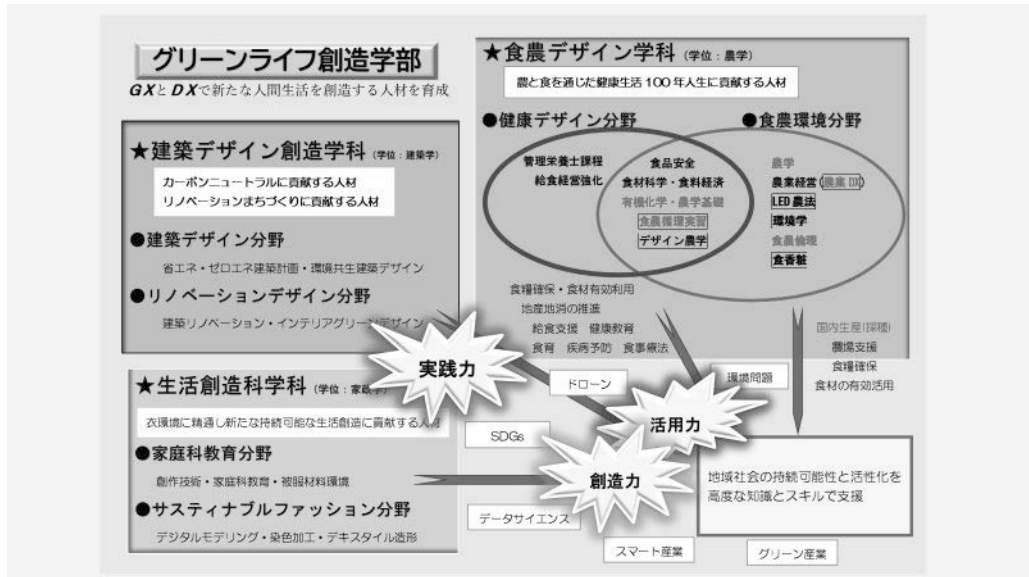
食農デザイン学科（仮称）

### ・文化創造学部 デジタルフロンティア学科（仮称）

基礎から学ぶ未来志向の教育プログラムにメタバース等を導入し教育DXを推進し、産官学連携による実社会で活躍できる即戦力の人材育成

改組計画については、仮称ですが、家政学部を「グリーンライフ創造学部」に変えたいと考えております。これは生活を支える社会のニーズと課題に応えるため、GXとDXで新たな人間生活を創造する人材の育成を目的としています。生活科学専攻を「生活創造科学科」、住居学専攻を「建築デザイン創造学科」、健康栄養学科を「食農デザイン学科」に

という構想です。



本会の冒頭、理事長先生のご挨拶にもありましたように、管理栄養士の希望者が減ってきているということで、健康栄養学科の定員が本学では最も多くを占めている現状からは、大学全体にとって大変厳しいことです。改革は大きなチャレンジになりますが、やらざるを得ないと思っております。ただ、クリアしなければならないハードルは大きいわけでして、食農分野で何とか農学関係の学位を、ということを現在のところ考えております。

もう一つは文化創造学部ですが、現在、文化創造学部は一学科、文化創造学科しかないわけです。その文化創造学科に、「初等教育学専攻」「文化創造学専攻（書道専修・観光専修）」「デジタルアーカイブ専攻」が全て入っています。そこで、文化創造学科を残しつつ、「デジタルフロンティア学科」を新たに創設したいと考えているところです。新学科では工学の情報の学位を取得するように考えたいと思っております。

**文化創造学部 デジタルフロンティア学科** [学位:工学(情報)]

○基礎から学ぶ未来志向の教育プログラム  
メタバース等を活用することで、データサイエンスや AI 等の知識やスキルを身につけ、論理的思考や問題解決能力の伴った DX 化を推進できる人材の育成

○岐阜女子大学メタバースプロジェクト等の特色のある活動を通じた社会貢献プログラム  
メタバース等の活用で、広域での学修や協働が可能になり、リーダーシップやコミュニケーション能力の伴った社会課題に対する取り組みを推進できる人材の育成

○産官学連携による実社会とつながる実践的なプログラム  
産官学連携で、メタバースの観光 DX や教育 DX での活用、災害時のドローン活用、データ分析のスキル等を身に付けることによる即戦力となる人材の育成

クリエイティブな学びの実現  
(1) 全ての授業においてどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築  
(2) メタバースと e-Learning を融合した学びへの転換  
(3) 他大学との連携による新たな展開

**デジタルフロンティア学科**

4年	3Dモデリング XR ゲームエンジン インターネットのデータベース など 人工知能 音声・画像認識 パターン認識	観光 DX 下記に:産官学連携	メタバースと e-Learning を融合した ハイブリッド授業	デジタルアーカイブ 下記に:産官学連携
3年	情報モラル 情報倫理 JAVA C++ 等のプログラミング言語 など デジタルアーカイブ	DX(メタバース)の活用、産官連携		デジタルアーカイブ 下記に:産官学連携
2年	幾何学 統計学 情報理論 電子回路 ロボット ゲームソフト システムの操作 など プログラミングの基礎 C系語	3Dモデリング ゲームエンジン XRIAR,VR,MPI 企業との連携:産官学連携		デジタルアーカイブ 下記に:産官学連携
1年	情報技術のベース (数学 物理 など)	ビッグデータ活用 下記に:DMO:産官学連携		産官学連携 デジタルアーカイブ 下記に:産官学連携

Multi Campus One Digital University 構想

**大学教育にデジタル技術を積極的に取り入れた「学修者本位の教育の実現」「学びの質の向上」**

デジタルアーカイブ 観光資源や地域資料などのデジタルアーカイブ約50万件!	メタバース研究 下呂市と連携して産官学で地域貢献。および、高大連携	メタバースを活用した 授業および実践
2004年文化創造学部文化創造学科文化創造学専攻にてデジタルアーカイブ研究	2022年より岐阜女子大学メタバースプロジェクト	

文化創造学科の学位は、文学士です。デジタルアーカイブ専攻についても文学士という学位で出していましたが、デジタルフロンティア学科は工学系で情報の学位を目指しますので、これもハードルがなかなか高いです。基礎から学ぶ未来志向の教育プログラムにメタバース等を導入し、教育 DX を推進して、産官学連携による実社会で活躍できる即戦力の人材育成を考えています。

今年度選定された他大学の例を見ていただきましても、DX 化に向けた取り組みが多いです。デジタル系の人材、特に AI 関係の人材などは、今、取り合いになっているところですので、この分野で新しいスタッフを十分に集めることということは、大きな挑戦だと思っております。

これまで積み上げてきた本学のデジタルアーカイブやメタバース研究などを土台にしながら、人工知能、さまざまなロボット等々の先端的な情報科学技術についても学び、そういう力を持った即戦力になるような人材を育成していきたいというプランでございます。

私からの説明は以上とさせていただきます。

## 4. 外部評価委員会議事要録

日 時：

令和6年2月10日（土） 13時30分から15時00分

場 所：

岐阜グランドホテル 東館1階 ルミエール

参加者：

(1) 外部評価委員（50音順）

- ・小川哲也氏（清水建設株式会社名古屋支店副支店長）
- ・小関雅司氏（常葉大学 浜松キャンパス浜松基礎教育センター主幹）
- ・高口 努氏（国立大学法人信州大学 理事）
- ・水川和彦氏（岐阜市教育委員会教育長）

(2) 学内関係者

杉山理事長、松川学長、富士家政学部長兼学生部長、黒見大学院生活科学研究科長、横山文化創造学部長兼文化創造学専攻主任、久世遠隔教育通信部長、藤木生活科学専攻主任、藤田健康栄養学科長、森初等教育学専攻主任、倉坪事務局長、谷学長補佐、笠井学長補佐、瀬戸学長補佐

司会・進行

学長補佐（谷、笠井）が司会・進行。委員会に先立ち外部評価委員の紹介を行った。

### 1 開会のあいさつ

- ◎ 松川学長から、コロナ禍の教育面での影響と考えられる学生の変化や、多様化の状況について説明があり、社会の変化に対応するためには国公立のどの大学も一層の改革が必要であると認識しており、本日は現在取り組もうとしている本学の改革の方向性を説明させていただくので、忌憚のないご意見をお願いしたいというあいさつがあった。
- ◎ 杉山理事長から、自ら学生募集を行っているものの感想として、学生募集の現場は熾烈を極めている。沖縄の学生募集でも関東ブロックの有名大学の募集活動は学府の理念を逸脱した悲惨な状況となっている。また管理栄養士養成機関の学生確保も関東

ブロックといえども厳しい状況となっており、経営と教学のせめぎあい、どの大学も苦悩しているとの説明があった。本学は、県外からの入学者の割合も多く、地元に戻り地元を維持するための人材育成を目指しており、能登半島地震で罹災した学生が大学で学んで地元のために貢献したいと言ってくれたその一言が本学の進むべき方向だと思っているとの説明があり、本学の方向性については是非忌憚のないご意見をお願いしたいというあいさつがあった。

## 2 本学の教育課程について

◎ 富士学生部長から、①教育課程の構成概念、②5年度の活動概要、③6年度に向けての取り組みについて報告、説明があった。

### ①教育課程の構成概念

- ・本学独自に作成しているのは、1) 入学前学習課題テキスト、2) 初年次教育テキスト(補完教育用)、3) 専門基礎テキスト、4) 資格取得ガイドブック、5) 資格取得のための手引書であり、概ね3年に一度改訂している。

### ②5年度の活動概要（実施事業について説明）

- ・沖縄女子短期大学との姉妹校協定締結 15 周年記念事業記念講演会を開催。
- ・未来の幼児教育講演会を開催。
- ・地域連携活動の状況について。
- ・「金華橋ストリートパークライン」「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」に参加。
- ・岐阜女子大学ドローンカレッジ（国土交通省登録講習機関）の状況について。

### ③6年度に向けての取り組み（準備状況、考え方を説明）

- ・中期経営計画の状況について。
- ・大学・高専機能強化支援事業への挑戦について。
- ・学生定員の適正管理への対応（認証評価改善報告）について。

## 3 本学の今後の方向性について

◎ 松川学長から、本学の方向性として次の2点、①第3期中期経営計画、②改組計画についての説明があった。

### ①第3期中期経営計画（教育ビジョン関係事項について説明）

- ・第3期（2024年から2028年まで5年間）の計画で主要事項は以下の通り。

- ・学生の主体的学びのための環境を整備する（60 単位相当の遠隔授業科目の開設を目指して作業を開始した。）。
  - ・20 年以上蓄積してきた教育リソースの活用を図る。
  - ・ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた特徴的学びを展開。
  - ・改組計画と関係して、DX 社会の推進に貢献するための知識・技術の修得を目指す。
  - ・検討組織として「大学教育推進会議」を設置し、その下に3つの作業部会「企画・検証部会」「e-Learning 推進部会」「DX 推進部会」を設置して、具体的検討を行っている。
  - ・教育推進方策として、実学の重要性を認識し、授業外学修時間を増加し、アクティブラーニングを推進するための仕掛けの構築を目指す。学生の習熟度等のデータ把握と、それに基づく評価・検証を実施し、教育の質保証を目指す。
- ②改組計画（文部科学省施策の基金を活用した学部・学科改組計画の概要を説明）
- ・以前から特に文化創造学部を中心とした改組・改編計画を継続検討してきた。
  - ・今回、文部科学省施策「成長分野を牽引する大学・高専の機能強化に向けた基金」を活用した改組について検討する。
  - ・デジタル化の加速度的進展に対応できる人材の育成が喫緊の課題と認識している。
  - ・検討内容にはハードルが大変高い領域もあるが、本学における成長分野への貢献策を模索し、推進する。
  - ・具体的には、「グリーンライフ創造学部」学部設置と「建築デザイン創造学科」、「食農デザイン学科」の学科新設を検討している。
  - ・文化創造学部情報科学に強い人材の育成を目指す「デジタルフロンティア学科」の新設を検討している。

#### 4 外部評価委員の講評

主な内容は以下のとおりであった。

- ◎ 小川哲也氏（清水建設株式会社名古屋支店副支店長）
  - ・家政学部の生活全般（衣・食・住）における取り組みは素晴らしい。
  - ・例えば、住居学専攻で在学中に2級建築士の資格を取得し、さらには卒業時に1級、2級合格レベルの知識を有するまでの人材育成は素晴らしい。
  - ・デジタルツールは日進月歩ですが、実社会において働き方改革などデジタルツ-



ルを活用した業務の効率化は必須になってきている。

- 一つのツールを深く使いこなすという人材も必要だが、それよりも広く多くのツールを知っていて、それをどう業務に活用できるのかを考えられることが重要と考えます。いろいろなツールを知って仕事上で何を解決できるのかということ柔軟に発想できること。感性を伸ばす機会を増やすことが大事だと思います。
- 建設会社は、発注者、設計者、協力業者、そして、会社内の上司、同僚や社内の内勤スタッフなど、さまざまな関係者とのコミュニケーションにより、工事を進めて建物をつくり上げることとなりますので、コミュニケーション力は非常に重要です。今後も、大学では特別プロジェクト実習や地域連携プロジェクトなどを通じて、コミュニケーション力を高めていただきたい。
- GX についても多くの社会の事象に適用できるものと考えます。その考え方ができるためには、いろいろな技術やツールに触れる機会を作ってください、幅広い目を持った学生を育てていただきたい。

◎ 小関雅司氏（常葉大学 浜松キャンパス浜松基礎教育センター主幹）

- 大学の教育は、高校と異なり「学習指導要領」などはなく、学校の教育理念に基づいて、大学が自主・自立的に決めることができる、本当に創造力（creativity）が求められる機関だと思います。
- 今後の方向性については、本当に大変な内容だと思いますが、やりがいのある内容ですので、全教職員一丸となって取り組んでいただきたい。
- 岐阜女子大学は、きめ細かな教育を実践され、着実に学生が力を伸ばしていると思います。
- ホームページで卒業生のアンケートを拝見しました。学生の卒業時、卒業後数年後の学生生活の満足度や大学の学びが活かされているかどうかについて、いずれも肯定的な評価が90%以上と非常に高く、感銘を受けました。
- 課題とされている定員確保については、ほぼ全ての大学（首都圏あるいは大規模の大学以外）が抱えている課題だと思います。
- 学部・学科系統の志望動向も時流によって変わり、最近の分析では、女子の実学志向、理系志向が高まっているようです。理学、工学、農学系統の志願者が増えている一方で、女子に人気が高かった従来の人文学、生活科学の系統の志願者が減っているようです。

- ・河合塾の『Guideline』の最新号に「女子大の存在感を高めるため」ということで以下の3点が書かれていました。
  - ①ニーズの高い学部・学科構成への転換
  - ②各大学が本来持っている魅力や特徴を自覚し、それをブラッシュアップしてアピールする戦略
  - ③女性のエンパワーメントのための教育実践
- ・岐阜女子大学では、「どんな知識・技能が求められているのか、あるいはどんな資質・能力を育成すべきか」を不断に検討されていて、学生の質の変化や、あるいは送り出す会社の実態等も敏感に感じ、これまでも適時適切に対応されていると思います。
- ・今後の方向性では、国の新事業を活用して大幅に改組を進めていく必要がありますので、全教職員が当事者意識を持ち、事業の背景あるいは現状などを共通理解した上で、経験則だけに頼ることなく、いったん、ゼロベースから考えることも大事だと考えます。
- ・学部・学科のネーミングが「デジタル」や「創造」といったネーミングも国の施策に沿った統一感がある名称であると思います。
- ・大学開学時からの歴史のある家政分野、また先進的に取り組んできたデジタルアーカイブ、あるいはメタバースやドローンといった強みや特色を活かした改組であると思います。
- ・Digital Universityの「どこにいてもいつでも学べる」という構想も、学習者本位の学習を実現するとともに、高校時代に不登校経験のある生徒への対応という社会のニーズにも対応するものと考えます。
- ・e-LearningやDXについて、何を学ぶか、あるいは学んだ結果、何ができるようになるか、どういったことが身につくのか、その教育の内容、効果について今後の検討でブラッシュアップして明確にされる必要があると思います。
- ・こうした教育ビジョンを検討し、明確にすることは、実際に高校生が大学を選ぶ際には、どういった教科を学んで、どういった実習があつて、その結果、どういった力がつくのか。その力をつけて、将来、その力を社会にどういうふうを活かしていけるのか、その進路は、といったことが、高校生が大学を選ぶ観点かと思えますので、三つの方針（DP・CP・AP）を検討されるなかで、全教職員一丸とあって、是非ご検討いただければと思います。

- ・河合塾の『Guideline』の最新号の「大学改革 12 のトレンド」という特集に岐阜女子大学の今後の方向性に関係すると思われる 6 点がありました。

- ①理工農学系への学部転換
- ②情報系学部の拡充
- ③理系分野の女性活躍推進
- ④文理融合系学部の設置
- ⑤複数専攻制、ダブルとか、トリプルメジャー制
- ⑥数理・データサイエンス・AI 教育

全国のほとんどの大学が、同じような方向性で大学改革を考えていると思いますので、岐阜女子大学らしさをどのように打ち出すのが重要と考えます。

- ・岐阜女子大学の存在意義は、女子教育を実施し、郷里に還元して、その地域社会を支えていく。こうした人づくりを実践していることが、岐阜女子大学の存在感であり、特色だと思います。
- ・岐阜女子大学さんに学生を送り出した全国の高校現場の人というのは、岐阜女子大学さんが学生の面倒見のいいこと、あるいは入学後、力を伸ばしてくれることを誰よりも一番よく知っている応援者だと思います。ぜひ、不易流行の観点から守るべきところは守り、チャレンジするべきところは大きくチャレンジをして、大学づくりに取り組んでいただきたいと思います。

◎ 高口 努氏（国立大学法人信州大学 理事）

- ・岐阜女子大学は、非常にきめ細かな学生指導により、さまざまな国家試験の合格者、非常に高い合格率を維持し、岐阜県内の公立高校の家庭科教員比率も非常に高く、大きな実績を上げられている。
- ・一方で、国・公・私立に限らず、大学の学生確保には厳しい状況がある。これは私どもの信州大学でも同じ状況であり、これからの社会のニーズに合わせた転換は必須だと思います。
- ・今後「グリーンライフ創造学部」への転換、文化創造学部「デジタルフロンティア学科」を創設するという方向性については、非常に時宜を得た中身であると考えますので、こういう方向で進めていただけたらと思います。

◆<質問>デジタルとか、グリーンとかに転換に必要な教員の確保方法について

◇<回答>実施する教育内容と本学教員の研究歴のマッチングを図るとともに、いろ

いと近隣の大学の知り合いの先生等にご相談し、対応を進めます。

それでも、核となっただけの先生の確保は不可欠と考えており、理事長とも経営の観点からも人材確保に努めることとしています。

◆<質問>中退する学生への対応について

◇<回答>重要案件と考えています。要因はいろいろありますが、学生の真意の把握に努め、本学のアドバイザー制度、教育支援センターとの連携、保護者の面談等を通し、転学部・転学科の可能性を視野に対応を進めています。

- ・管理栄養士の就職先について、管理栄養士が獲得する資格の融合により、新たに果すべき役割を示し、岐阜女子大学からその方向の人材ニーズを打ち出されてはどうか。
- ・初等教育学専攻での人材育成は、やはり、ICTの活用力、授業をデザインするデザイン力、あと子どもをしっかりと見て、そして教え込むというよりかは学びを伴走していくといった教員を育成していただければと思います。
- ・岐阜女子大学としての特徴である「創造」という強みを前面に打ち出されたいと思います。また、女子大ということで、女性の活躍支援ということを前面に打ち出し、地域の企業や自治体と連携して女性の活躍を盛り上げていく取り組みを、より一層進めていただければと思います。

◎ 水川和彦氏（岐阜市教育委員会教育長）

- ・岐阜女子大学の卒業生は、教員になって子どもと丁寧に愛情を持って向き合う先生がすごく多いと感じています。これは、建学の精神を含めて、大学で人間力が磨かれているからだと思います。
- ・学生は「あなたらしく、あなたならではの」を見つけるために、4年間大学で学ばれると思います。教育実習で「先生になって、こういうことがやりたい」と語ることはできることは大事なことで、「自己探求」「自己表現」「自己創造」の教育の魅力が女子大のステータスを決めているのだと思います。
- ・新しい学部、新しい学科に関連して、新しい学部の「グリーンライフ創造学部」のイメージは、以前のもので一気に変わって、高校生は、これからの社会をつくっていくグリーンライフと創造とを合わせていると考えるだろうと思います。
- ・学生に魅力的なカリキュラムが組みられていることを見せることは重要です。
- ・大学の改革を考えるとときに4つの視点があると思います。

①社会と大学をどうつなげるか、②大学間連携、③高大接続、④社会人にとってのリスキリング

- ・社会と大学をどうつなげるかについては、社会が求める人材と未来の社会像を見据えて大学が存在していることを見せる。そして大学だからこそ身につく力を示すことが重要と考えます。
- ・1人1台のタブレット時代を過ごしたデジタルスキルの高い生徒が、5年後には入学してきます。この備えを怠らないようにする必要があります。
- ・高校ではSDGsを意識した授業が実施されています。大学も全ての授業や事業をSDGsに根拠を置くことを今から準備する必要があります。
- ・自分の学びを社会連携の実践を通して検証しながら、学びを確認できるようなカリキュラムや見える化が重要と考えます。高校のポートフォリオも変わってきています。
- ・オンラインの効果として、学生の学びだけではなく、先生自身の学びにもつながるような仕掛けが考えられれば、協力する大学教員スタッフももっと豊かになるのではないかと思います。社会には自ら学びたいときにその学びができるシステムがあることが重要と考えます。
- ・総合的人間力より、一歩手前のコミュニケーション力を4年間の大学生活の中で自然と身につけることができれば素晴らしいので、そういった取り組みをお願いしたい。
- ・受験生にとって、いろんなジャンルの学部、他大学を含めて、大学にいろいろな繋がりがあること、いろいろな学びがあることは、大きな魅力になると考えます。
- ・大学として、普通科の生徒も専門科の生徒も入りやすい仕組みを工夫されることは有用と考えます。
- ・社会人にとってリスキリングは重要な魅力ですので対応をお願いします。

## 5 閉会のあいさつ

- ◎ 横山文化創造学部長から、謝辞と皆様から頂いた貴重な講評を基に、中期経営計画に沿って新しい大学の姿を求め、全教職員一丸となって努力を継続していきたいとのあいさつがあった。

## 5. 3 ポリシー

大学	家政学部	文化創造学部 文化創造学科
<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 岐阜女子大学は、建学の精神「人らしく、女らしく、あなたらしく、あなたならではの」の下、広く豊かな教養と高い専門的知識・技能を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人材を育成する。そのため、大学が定める学力及び能力・人間力を身につけ、卒業要件を満たして所定の期間在籍した者に、卒業を認定し、学位を授与する。</p>	<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 家政学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と家政学に関する高い専門知識や技能を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この目標を踏まえて編成した本学部の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。 1 「女子ならではの」の深い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身につける。 2 家政学の専門知識と技能を修得し、地域社会で有用な資格を取得できる力を身につける。 3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、倫理観、コミュニケーション能力などについて、豊かな人間力を身につける。</p>	<p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 文化創造学部は、建学の精神に基づき、広く豊かな教養と初等教育・文化事業に関する高い専門知識や技能を身につけ、課題の見出しと解決に取り組む主体性を持って地域社会で活動できる人材を育成するため、以下の3つを教育目標とする。この教育目標を踏まえて編成した教育課程を修め、卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。 1 「女子ならではの」の深い教養を育み、生涯にわたって学び続ける力、主体性を持って地域社会で活動できる力を身につける。 2 初等教育・文化に関する高い専門的知識と技能を修得し、社会的に認められる資格を取得できる力を身につける。 3 相手の立場を思いやる心、たゆまず努力する姿勢、多様な価値観を認める寛容な精神など、地域社会で幅広く活躍できる人間力を身につける。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 岐阜女子大学は、豊かな教養と高い専門的知識・技能を育み、課題の見出しと解決に取り組む地域社会で主体的に活動できる人間力の育成をめざして、多様な授業形態を組合せた教育課程を体系的に編成し、それを実践・評価する。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 家政学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。</p>
<p>1 教育課程の編成 (1) 教養教育では、大学での学びと将来に向けての学びに主体的に取り組む自律性を育むため、学修の基礎となる全学共通教育科目を配置する。 (2) 専門教育では、高い専門性を身につけるため、主要科目と関連する履修科目の到達目標を明確にして体系的に配置する。 (3) 学識の実践力を高め、課題の見出しと解決に取り組むため、実習・演習科目を効果的に配置する。</p>	<p>1 教育課程の編成 (1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基礎教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。 (2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。 (3) 実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取り組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。 (4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>	<p>1 教育課程の編成 (1) 教養教育では、全学共通で自己確立（自己探求、自己表現、自己創造）をめざす基礎教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。 (2) 専門教育では、学部での専門的な学修の基礎となる共通科目と各専攻が定める主要科目と関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。 (3) 演習科目、学外実習科目等を配置し、課題の見出しと解決に取り組む学生の実践力の育成を図る。 (4) 論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。</p>

<p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 教育目標・教育課程に応じた効果的な教育を推進する。</p> <p>(2) 基礎・専門教育課程では、カリキュラムマップを編成し、学生の主体的な受講と学修を推進する。</p> <p>(3) 学修の効果を高めるため、主体的、協働的、課題の見出し・解決型の実践的学修を取入れる。</p> <p>(4) 本学教育の総仕上げとして、卒業研究を必修とする。</p>	<p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 家政学部では、健康栄養学、生活科学、住居学の基礎と専門について、家政学的視点から実践的に教育する。</p> <p>(2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p> <p>(3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習 (PBL) 等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。</p> <p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p>	<p>2 教育内容・方法</p> <p>(1) 文化創造学部では、文化創造学、初等教育学、デジタルアーカイブを実践的に教育する。</p> <p>(2) 各専攻で、学士力育成のためのカリキュラムマップ、専門基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。</p> <p>(3) 学生参加型授業、問題解決型学習 (PBL) 等を実施し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。</p> <p>(4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。</p>
<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 2年終了時には、進学課程に必要な単位の修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得を評価する。</p> <p>(2) 学修状況を調査し、学修の状態と学修の方法を把握して指導と評価に活用する。</p> <p>(3) 卒業研究と関連学修について総合的な学びを評価し、卒業の適否を判断する。</p>	<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。</p> <p>(2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。</p> <p>(3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。</p>	<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。</p> <p>(2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。</p> <p>(3) 卒業研究の評価は論文発表と口頭発表で行い、その結果と全履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。</p>
<p>入学者受入の方針 (アドミッション・ポリシー)</p> <p>岐阜女子大学は、建学の精神と教育の目標を理解し、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性のある多様な人間力の研鑽に意欲的な人を選抜する。また、高い専門性を身につけ、課題の見出しと解決に取組み地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。</p>	<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p> <p>家政学部は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取組み卒業後に地域社会での活動をめざしている人の入学を期待する。</p>	<p>入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p> <p>文化創造学部は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) を踏まえ、次のような女学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学での学修に必要な基礎学力を有している人。</li> <li>2 知的好奇心にあふれ、向学心のある人。</li> <li>3 他者の考えを理解し、自分で考えて判断し、自己の意見を表現できる社会的能力を磨きたい人。</li> <li>4 卒業後は、地域社会での活躍をめざす人。</li> </ol>



【大学院】

生活科学研究科	文化創造学研究科
<p>修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 生活科学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と創造性豊かな研究能力や総合的課題処理能力を身につけ、生活や健康の質の向上を追究・提案・実践できる次のような人材の育成を教育目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、修了要件を満たした者に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>衣食住などの人間生活、あるいは食べ物と健康との関係について幅広い知識を修得し、人間生活の向上や改善、食生活を通じた健康の増進や疾病の予防に寄与できる高度な専門性を身につける。</li> <li>地域社会で主体的な貢献や活動を行うために、自律性、協調性、対話力、倫理観などの人間力を身につける。</li> <li>家庭科教員を目指す場合には、教材の研究及び開発を行う力、児童や生徒の教育を実践的に展開し、その分析・評価・改善ができる力を身につける。</li> </ol>	<p>修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 文化創造学研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と技能を身につけ、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標とする。この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、必要な修了要件を満たした者に学位を授与する。</p>
<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 生活科学研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、衣食住を中心とする人間生活の質の向上を図る生活科学分野と食べ物と健康との関わりを探究する応用栄養学分野について、「健康・安全」、「快適・便利」、「ゆとり・豊かさ」、「自己表現」などの視点から、以下のカリキュラムを体系的に編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育課程の編成             <ol style="list-style-type: none"> <li>生活科学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野で構成し、両者に共通する授業内容を研究科の必修科目として配置する。</li> <li>生活科学分野は、高度な家庭科教材の開発や実践的な食育などの教育・研究科目を配置する。</li> <li>応用栄養学分野は、管理栄養学の高度な知識と実践力を養成する教育・研究科目を配置する。</li> <li>研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。</li> </ol> </li> <li>教育内容・方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>生活学研究科は、生活科学分野と応用栄養学分野を実践的に学修する。</li> <li>生活科学分野は、高度な専門知識を修めた家庭科教員（高等学校・中学校）の養成を図る。</li> <li>応用科学分野は、EBN（evidence-based-nursing：実証に基づく看護ケア）に関する栄養研究に力を入れて、管理栄養士・栄養教諭専修免許が取得できる力を養成する。</li> <li>入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。</li> <li>社会人教育を実施するため、土曜日・日曜日に集中講義を開講する。</li> </ol> </li> </ol>	<p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学の二つの専攻において、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、多様化する現代の諸課題に対応できる実践力と専門分野における高度な研究力の修得を目指して、体系的なカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育課程の編成             <ol style="list-style-type: none"> <li>文化創造学専攻・デジタルアーカイブ専攻では、日本文化、英語文化（通信教育課程は除く）、文化創造の3つの分野に共通する授業科目と分野に応じて、それぞれ、書道・国語、英語（通信教育課程は除く）ならびにアーカイブに関する研究科目を配置する。</li> <li>初等教育学専攻では、幼稚園児及び小学生の育成に関する実践的な教育・研究科目を配置する。</li> <li>各専攻について、通信教育課程を編成する。</li> <li>研究能力の育成のため、修士論文特別研究を配置する。</li> </ol> </li> <li>教育内容・方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>文化創造学研究科は、文化創造学と初等教育学を実践的に学修し、それぞれにおいて、高等学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く）・書道）・中学校教諭専修免許（国語・英語（通信教育課程は除く））および小学校教諭専修免許・幼稚園教諭専修免許の取得可能な能力を養成する。</li> <li>文化創造学研究科は、情報社会が求める上級デジタル・アーキビストの養成を行う。</li> <li>入学時点で学生の指導教員を決め、実験・実習等に付随する諸問題に対して個別に細やかな研究指導を行う。</li> <li>通信教育課程の学生には、スクーリングを土曜日・日曜日・祝日等を実施する。</li> </ol> </li> </ol>

<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などの取り組み状況、学内外での研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>	<p>3 学修成果の評価</p> <p>(1) 履修科目の学修評価は主にレポートで行い、研究能力の修得評価は実技などの取り組み状況、学内外の研究報告・発表（口頭、論文）で行う。</p> <p>(2) 修士論文特別研究では、作成した論文と口頭発表について複数教員で評価する。</p> <p>(3) 以上の評価を総合して、修了の適否を判断する。</p>
<p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>生活科学研究科は、岐阜女子大学の建学の精神と教育方針・目的を理解し、次のような素養と気構えのある学生の入学を期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を備えている人。</li> <li>2 衣生活、住生活に関する諸問題の解決に意欲を持っている人、又は食べ物と健康との関係について関心を持っている人。</li> <li>3 地域社会における衣食住に関する諸問題の解決に貢献する志のある人。</li> <li>4 知的好奇心にあふれ、自主的な研究を行う意欲を持っている人。</li> </ol>	<p>入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>文化創造学研究科は、修了認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学院での学修・研究に必要な基礎的専門知識・技能を有する人。</li> <li>2 他者の考えを理解し、自分で考え判断し、自己の意見を表現できる人。</li> <li>3 知的好奇心にあふれ、主体性を持って多様な人々と協働して研究に打ち込める人。</li> <li>4 文化の伝承と創造、次世代の育成など、地域社会の発展に向けて行動できる人。</li> </ol> <p>文化創造学研究科通信教育課程は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、上記に加え、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5 働きながら学ぶ意欲のある人。</li> </ol>

## 生活科学専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生活科学専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 衣・食・住に関する知識や技能を活用し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を工夫し地域社会で主体的に展開できる力を身につけている。
- 2 家族に関する知識や技能を活用し、円滑な対人関係を築き、人と適切に接する総合的人間力を有している。
- 3 消費生活・環境に関する知識や技能を活用し、生活上の多様な課題に対処できる自律性と協調性・倫理観を身につけている。
- 4 洋裁・和裁の縫う知識・技能を備え、家庭科教員としての確な実習指導ができる能力を有している。
- 5 これらの資質・能力を多面的に活用し、家庭科教育を通じて社会へ貢献することができる力を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教養教育科目、学部共通科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 教養教育では、自己確立をめざす基盤教育に注力し、地域社会のグローバル化に応じた情報学、外国語学と教養選択科目を配置する。
- (2) 専門教育では、学修の基礎となる共通科目と高度な専門科目を体系的に配置し、家庭科教員資格取得をめざした教育課程を編成する。
- (3) 洋裁・和裁の技術向上のために、被服実習科目を多く配置する。
- (4) 論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と学士論文の作成を必修とする。

#### 2 教育内容・方法

- (1) 日常の生活課題を科学的に分析し、課題の見出しと解決に取組み、豊かな生活を創造するために実践科目を重視する。

- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドマップ等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3) 実践科目では、被服実習・調理実習といった実習面に強い・実践的指導力の高い家庭科教員を養成するため、実習授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）、模擬授業等を実践する。創造的に考え、多様な人々取り組み、主体的に生活の問題解決をはかる人材を育成する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、製作物、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

生活科学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、学修に意欲があり、課題の見出しと解決に取組み、卒業後に地域社会での活躍をめざしている人の入学を期待する。

## 住居学専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

住居学専攻は、家政学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 生活者側の視点に立ち、住む人、使う人が満足できる建築・インテリアの高い専門的知識・技能を修得し、課題の見出しと解決に取り組み、地域社会で活躍できる力を身につけている。
- 2 建築・インテリアに関する幅広い知識・技能を修得し、地域社会で有用な資格を取得できる力を身につけている。
- 3 地域社会で活躍できるように、建築・インテリアのデザインに必要なコミュニケーション力と社会人として求められる教養や人間性を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

住居学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、学部共通科目、専門科目、発展的科目、卒業研究、実践的教育を体系的に編成して開講する。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 初年次（専門基礎）教育では、専門科目の履修に必要な基礎学力を補完するための科目と建築・インテリアをデザインするための基礎科目を配置する。
- (2) 専門教育では、建築スペースデザインコース、インテリア・プロダクトデザインコースの2つを設け、より実践的な課題に対応できる知識・技能を修得する科目を配置し、併せて社会で求められる国家資格等の取得を目指した教育課程を編成する。
- (3) 実践的能力を重視して、専門教育科目のコアとなる設計・作図演習、ICTの活用、プロジェクト実習等を初年次より配置する。
- (4) 課題設定・解決力、企画・計画力、プレゼンテーション力等を身につけるために、卒業研究を必須とする。

#### 2 教育内容・方法

- (1) 実践力を身につけるために、実際の建物等を企画・設計・施工する実習や地域の課題解決型の実習等の実践的教育をおこなう。

- (2) 各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の教材や資料、授業と家庭学修の指針となるシラバスを提供し、学生の主体的な学修を支援する。
- (3) 実践科目では、就業力を育成するため、実習を通して課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な深い学びを支援する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言をおこなう。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、課題作品、レポート、テスト、出席率等で評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全履修科目の学修成果について評価し、卒業の適否を判断する。

#### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

住居学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、住む人、使う人の立場に立ち、環境への配慮や安全かつ快適な建築・インテリアをデザインするための知識・技能を実践的に身につけ、建築・インテリアのスペシャリストとして、課題の見出しと解決に取り組み、地域社会での活動を目指している人の入学を期待する。

## 健康栄養学科

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

健康栄養学科は、家政学部の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を受け、次の能力を有することを重視し編成した本学科の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 管理栄養士として、地域社会で主体的に活動できる力を身につけている。
- 2 健康と栄養の専門知識と技能を修得し、管理栄養士を始め地域社会で有用な資格を取ることができる力を身につけている。
- 3 地域社会の幅広い分野で活躍できるように、自律性と協調性、倫理観、コミュニケーション能力などを修得し、豊かな人間力を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、専門基礎科目、専門科目、関連する選択科目や実践的教育を体系的に編成して開講する。

#### 1 教育課程の編成

- (1)管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を抽出するための基礎科目を配置する。
- (2)管理栄養士として、地域の栄養と食に関する課題を客観的に分析するための科学的思考力を養う専門科目を体系的に配置し、国家資格等の取得をめざした教育課程を編成する。
- (3)科学的根拠に基づいた実践的能力を重視して、課題の見出しと解決に取り組むため、講義に関する演習・実習科目を多く配置する。
- (4)論理的な思考力と行動力を身につけるため、卒業研究と卒業論文の作成を必修とする。

#### 2 教育内容・方法

- (1)健康栄養学科では、栄養学の基礎と専門について、実践的に教育する。
- (2)各学修分野について、カリキュラムマップ、専門・基礎テキスト、資格取得ガイドブック等の資料や教材を提供し、主体的な自己学修を奨励するとともに、適切な情報の収集・選択をする技能を修得する。

- (3) 実践科目では、就業力を育成するため、学生参加型授業、グループ学習、課題解決型学習（PBL）等を実施する。
- (4) 学修環境を整備し、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。
- (5) 各学年各クラスにアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細かな相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率や学修目標の達成度などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

健康栄養学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解して、それを学ぶに足る基礎的学力を有し、食べ物と健康に関心を持ち、学修に意欲があり、卒業後に課題の見出しと解決に取り組む地域社会での活躍をめざす人の入学を期待する。



## 初等教育学専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

初等教育学専攻は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 幼児期から児童期にかけての教育に対して、見通しをもった課題を見出し、解決に導く教育実践の力を身につけている。
- 2 教育人として人間性・社会性に優れ、教育への情熱を有している。
- 3 理論と実践との往還により着実な教育実践力を有し、自己向上に励み社会に貢献できる資質を身につけている。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

初等教育学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、0歳から12歳までの子どもの心身の成長発達を理解し、ICT活用指導力を供えもち、教育の今日的課題に向かい、その解決に取り組む保育士・教員を養成する。既設の「人材育成構想」（理論と実践の往還）に、授業方法としてデジタルと対面の最適な組み合わせによる効果的な学び方を視野に入れ、以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 初等教育学専攻のカリキュラムは、子ども発達専修と学校教育専修で編成されている。それぞれ「幼児期の保育・教育」と「小学校の教育」を系統的に学ぶことができる。
- (2) 本学のもつICT活用に関わる教育資財を活かし、活用していく能力・技能を身につけることができる。
- (3) 保育、教育に関する理論学修と実践活動を重ねながら自らの子ども観、保育観・教育観を高め、保育者、教育者としての資質と教育の課題の解決にもつながる実践力を身につけることができる。
- (4) 集団学習等をとおして、仲間と保育・教育の本質を交流し合い、互いに高め合う力を育み、コミュニケーション能力などの社会性を育むことができる。

## 2 教育内容・方法

- (1) 理論・実践・討論の学修を通して 思考力、判断力、表現力を養う主体的な学修を行う。
- (2) 1 年次から 4 年次にかけての段階的な保育・教育現場等での体験活動を、年次毎に配置した教育実習に活かして、教師力を高める。
- (3) これからを生きる児童生徒に必要とする情報機器を活用する能力や学修をより効果的学ばせていくドローン・メタバース活用技法に至る学修を習得する。
- (4) 地域の子どもに向けて活動するカリキュラムを位置づけ、積極的に社会参画ができ、優しさと強さと賢さを兼ね備えた保育者・教員となる取り組みを行う。

## 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、実技、行動力、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2 年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 保育所実習、教育実習への適否は、必要な学修成果と進路への意欲等の評価で判断する。
- (4) 卒業研究の評価は論文内容と口頭発表で行い、全履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

初等教育学専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解した次のような人を求める。

- 1 子どもとの関わりが好きで、幼児期の子どもの成長発達に深く関わりたいと考える人
- 2 教師への憧れを強くもち、児童を教育していくことに熱情を持っている人
- 3 仲間と力を出し合って共に成長していく学習や仕事がしたいと思っている人
- 4 教育に関心があり、教育の課題の解決に取り組みたいと思っている人

## 文化創造学専攻 書道専修

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 教育者として「書写・書道」を総括的に理解・修得するとともに、練度の高い技能で多様な作品づくりができ、その文化を継承し発展させることができる。
- 2 岐阜女子大学の建学の精神・教育方針を理解し、書道を通してボランティア活動・国際交流に努め、学修の成果を活かし社会に貢献できる。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、小・中学校の「書写」、高等学校の「芸術科書道」の教員を育成すること、および高度な専門性を以って、書道文化を継承し社会に貢献する人材を輩出することをめざし、以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 基礎・基本を大切に「基本点画」から学び、その後の臨書学習へと展開する。また書道概論・書道史・書論等の科目で「理論面」を補強し、実践的指導力を身につけるため「書写教育」・「書道科教育法」等を開設する。
- (2) 高等学校の「芸術科書道」では授業内容の9割が「臨書」であるため、各学年に「千字臨書」を課し「臨書力」が身につくように、各書体の講義を開設する。
- (3) 芸術としての「書道」の可能性も追求し、現代の書道を創造していくことができるよう「創作」の講義を開設する。
- (4) 書写検定試験の対策講座を時間割内で、教員採用試験・漢字検定試験の対策講座を授業時間以外に実施する。

#### 2 教育内容・方法

- (1) 基礎・基本を徹底させるため、実技科目では合格制を取り入れて多くの課題を出し、理論科目では小テストを設定して、学修効果を高める。
- (2) 放課後および休祭日の作品制作だけではなく、夏期休暇には2泊3日の錬成会を実施し、行事への企画力・協調性ととも制作時の集中力を養う。

- (3) 学内での「大作展」・「半切展」の表装では、学生同士の相互支援の中で進める協働学習を通してコミュニケーション能力を養うと共に技術の伝承を図る。
- (4) 毎年の国内研修旅行・隔年の中国研修旅行を実施し、見聞を広め書道関係の知識を深める。
- (5) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができていないかを評価し、進級の適否を判断する。
- (2) 卒業研究では、論文に加え発表会でのプレゼンテーション能力も含めて総合的に評価する。
- (3) 卒業制作では、3分野以上の幅広い作品制作ができしかも鍛錬度の高さを「創造性」を観点に評価する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文化創造学専攻書道専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、書道文化およびその継承・発展に深い関心を持ち、書写・書道教育の専門性を高め教育者になろうとすると共に社会に貢献しようとする人を求める。

(2024. 3. 29 改定)

## 文化創造学専攻 観光専修

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

観光専修は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専修の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たしたものを学位授与の適格者とする。

- 1 観光専修では、世界に通用するホスピタリティスキルを身につけている。
- 2 英語教員を目指す学生は、高度な専門性と英語によるコミュニケーション能力を身につけている。
- 3 観光専修の全学生は、在留外国人の雇用に必要な専門知識を有し、幅広い分野で活躍できる人材である。
- 4 観光専修の全学生は、明確なビジョンを持って問題を発見し、自ら解決に導く実践力を有している。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、特に、観光という視点と英語教育という視点から、専門科目、選択科目、資格取得に関する以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 専門教育では、専門科目、選択科目、資格取得に関する科目の学習内容・学習目標を明確にして配置する。
- (2) 学外実習科目を系統的に配置し、観光業または英語教育に関わる学生の実践力および課題解決能力の育成を図る。

#### 2 教育内容の方法

- (1) 観光専修では、それぞれホテルマネジメントと旅行業務に精通した観光スペシャリストの育成及び外国人雇用に関する学修を通して、地方公務員や一般企業など幅広い分野で活躍できる人材を育成するカリキュラムを編成している。
- (2) 英語教育に興味を示す学生のために、国際社会で通用するグローバルな視野をもった英語教員を育成するカリキュラムを編成している。
- (3) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活などについてきめ細かい

相談や助言を行う。

### 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、通常授業の評価に加えて、実習時の成果、長期休暇中の課題の成果を総合的に考察して、学生の学修指導を行う。
- (2) 2年次終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究と全体的な学修について評価し、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

観光専修は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、日本や世界の文化に興味を持ち、観光に関する専門的な知識を深め、また、英語のコミュニケーション能力を向上させ、観光産業や教育の世界で活躍したいという人材を求める。

- 1 国内外の旅行が好きで、その案内や企画を作っていたいと希望する人
- 2 ホスピタリティスキルを身につけ、ホテルビジネスをはじめとする観光関連産業に将来携わりたい人
- 3 国際協力や国際支援に興味・関心があり、世界でグローバルな仕事に関わりたい人
- 4 専門性と英語によるコミュニケーション能力を備えた英語科教育を希望する人
- 5 観光、国際関係に興味があり、刻々と変わるこれらの業界の課題解決に取り組みたいと考えている人

## デジタルアーカイブ専攻

### ◆ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、文化創造学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を受け、次の能力を有することを重視し編成した本専攻の教育課程を修め、必要な卒業要件を満たした者を学位授与の適格者とする。

- 1 デジタルアーカイブに関する幅広い知識・技能を修得し、それらを活用して知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し文化を創造・発信する能力を有している。
- 2 資料をデジタルアーカイブ化する専門的知識と技能を修得し、デジタルアーキビスト、博物館学芸員、図書館司書の資格を取得できる力を身につけている。
- 3 文化を創造・発信するために、課題の発見と解決に取組み、常に新しい知識・技能の修得に努める強い意志を有している。

### ◆ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、文化に関する知識を身につけた上で、それらをデジタル化して記録・保存・管理し、知的財産（著作）権やプライバシー保護などの倫理に留意し、文化を創造・発信する能力を持ち、知識集約型社会に貢献できる専門職を実践的に育むために、以下のカリキュラムを編成している。

#### 1 教育課程の編成

- (1) デジタルアーカイブ能力の育成と、その能力を活かした企業、地方公共団体、図書館や博物館で活躍できる人材の育成を目指し、専門科目では、「文化の基礎分野」、「文化創造伝承分野」、「書誌アーカイブ分野」、「教材開発分野」の関連科目を、学修内容・学修目標を明確にして配置する。
- (2) 演習科目として、「特別プロジェクト」、「図書館活動演習」、「博物館実習（デジタルミュージアム実習）」を配置し、学生の実践力の育成を図る。
- (3) デジタルアーカイブに関する論理的な思考力と実践力を身につけるため、卒業論文の作成を必修とする。

## 2 教育内容・方法

- (1) デジタルアーカイブ専攻では、デジタルアーカイブに必要とされる収集、保存・管理、発信、評価の各プロセスについて実践的に教育する。
- (2) デジタルアーカイブの各プロセスに必要な知識、技能の修得のため、専門基礎テキスト、資格取得ガイド等の教材や資料を提供し、課題に主体的に取り組む姿勢と問題解決力を育成する。
- (3) 演習科目では、学生参加型授業、グループ学修、フィールドワークを取り入れ、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的での深い学びを支援する。自分にはない他者からの新しい視点を取り入れ、省察する視点を重視する。
- (4) 各学年にアドバイザー教員を配置し、学生の学修・生活等についてきめ細やかな相談や助言を行う。

## 3 学修成果の評価

- (1) 学生の学修成果は、レポート、テスト、デジタルアーカイブ作品、出席率などで評価し、単位認定の適否を判断する。
- (2) 2年終了時には、進級に必要な科目の単位修得と卒業研究等の履修に必要な基礎学力の修得ができているかを評価し、進級の適否を判断する。
- (3) 卒業研究の評価は、論文作成と口頭発表で行い、その結果と履修科目の学修成果を総合して、卒業の適否を判断する。

### ◆ 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

デジタルアーカイブ専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を理解し、文化や歴史に関する知識・技能を実践的に身につけ、課題解決に取り組み、社会に貢献したいという意欲のある人を求める。



令和5年度 岐阜女子大学・大学院外部評価委員会報告書

発行日：令和6年3月

発行：岐阜女子大学

(岐阜県岐阜市太郎丸80番地)

印刷：有限会社 青山印刷